

「女性視点の防災ブック」編集・検討委員会

(第4回)

議 事 録

平成29年9月8日(金)
第一本庁舎9階本部長執務室

午後1時00分開会

○池上委員長 定刻になりましたので、ただいまから第4回「女性視点の防災ブック編集検討委員会」を開催いたします。

委員会を進めるに当たって、諸注意を申し上げます。

本会は、非公開で実施いたします。資料につきましても非公開とさせていただきますので、情報管理のほどよろしくお願いいたします。

ただし、議事録については後日公開される予定ですので、その点を御注意ください。

なお、この委員会は女性視点の防災ブック編集に関して助言を行うもので、いただいた御意見全てを反映できないこともある旨、どうぞ御了承いただきたいと思っております。

では、本日の進行について事務局より御説明をお願いいたします。

○事務局 本日は、第1章の原稿案につきましても皆様に御意見をいただきたいと思っております。

なお、中島委員につきましても編集の観点から、事務局の取りまとめ作業のサポートに入りたいと思っておりますので、御了承いただければと思っております。

また、本日、五十嵐委員は都合により御欠席ですが、後日、事務局より別途御意見をいただく予定です。

本日の進行について、先に御説明をいたします。

この後、1時間半程度時間をとって、おおむね2時40分程度まで委員の皆様にお配りした原稿案を読んでいただき、御指摘の内容を赤字でメモ書きをしていただきたいと思いますと考えております。原稿は事務局が回収させていただいて、それをもとに事務局のほうから委員の皆様にお質問等をさせていただければと思っております。

原稿につきましても、委員の皆様にもいろいろ取材させていただいた内容をもとに作成しており、より内容を深めていただくために御意見をいただければと思っております。

原稿の確認方法についてですが、ご確認いただきたい視点は、文章の表現方法であるとか、細かい文言等についてはなくて、書いてある防災対策の内容についての御確認をお願いしたいと思います。

例えば、適切な対策となっているのか、最新の対策なのか、あるいはほかにこういう対策を紹介したほうがいいのではないかとといったような視点で御確認をお願いできればと思います。

なお、文章の表現方法、細かな文言などにつきましても、雑誌編集の観点から別途中島委員にもいろいろ御確認させていただく予定です。

赤字の記載方法ですけれども、今、申し上げた視点を踏まえて、気になった箇所に指摘内容を赤字で御記入いただければと思っております。後ほどこの資料を事務局が回収させていただきますので、できましたら御指摘の内容、趣旨が原稿を見て事務局側で確認できるように、例えば「？」とかではなく、具体的に書いていただきたいと思います。

「何々のほうがより効果的」、あるいは疑義がある場合は、「例えばこういう誤解を与

えるおそれがある」というような簡単なメモで結構ですので、なるべく具体的に記載をお願いしたいと思います。

原稿につきましては、事務局が取りまとめをいたします。皆様にお配りの資料には、インデックスをつけています。それが項目ごとになっていますので、インデックスごとで御確認が終わりましたら、事務局の担当が後ろに控えておりますので、担当のほうに随時原稿をお渡しいただきたいと思います。原稿は事務局でコピーの上、また各委員のほうにお返しいたします。

ちなみに、コピーは他の委員にはお配りしませんのでよろしくお願いします。

回収した原稿の内容について少し確認をしたいことがありましたら、御確認作業中で恐縮ですけれども、事務局のほうから各委員の皆さんに個別に御質問等をさせていただく場合があります。

おおむね2時40分まで御確認していただいて、休憩を挟んだ後、事務局よりこの委員会の場で委員の皆様にご内容についての御質問をさせていただければと思います。

あとは、全体構成ですけれども、資料2をお配りしております。今回は、そのうちの第1章の原稿を御確認いただくものになります。

ちょっと駆け足で御説明したのですけれども、御質問はございますか。もし何か御不明な点がありましたら、事務局のほうにお声がけいただければと思います。

それでは、早速ですけれども、2時40分くらいを目途に内容をお読みいただいて御確認いただければと思いますので、よろしくお願いします。

○池上委員長 それでは、御確認をよろしくお願いいたします。

特に、何か質問等はございますか。いいですか。

○事務局 あれば、途中でまた言っていただければと思います。

○池上委員長 わかりました。

では、よろしくどうぞお願いいたします。

○国崎委員 早速、いいですか。文章の表現方法ではなくて内容面ということなのですが、表現は指摘しなくても後で直してもらえるとということでしょうか。

○事務局 気になった点は、書いていただければと思います。

○国崎委員 わかりました。

○事務局 よろしくお願いいたします。

○国崎委員 近くのトイレを探せるアプリということなのですが、これは災害で通信が途絶えても使えるのかということと、そもそもそのトイレは断水していても使えるトイレということなのですか。これは、書いてあっても意味がないかと思ったんです。だって、アプリだってきっと見られないし、例えばARや位置情報などによりオフラインでも使えますよというアプリならばいいんですけれども、仮にアプリが使えたとして、本当にそのトイレに大変な思いをして行っても断水で使えません、使用禁止というようなことになっていないのか、というのがちょっと気になりました。

○事務局 承知しました。

○富川委員 災害時に役立つアプリのところなのですが、これは具体的なアプリ名は言わないんですね。

○事務局 あまり具体的に固有名を出すのは避けようと思っております。

○富川委員 これを読んだ方がこういうアプリがあるんだと思って、例えば「自分で災害情報をキャッチする」というアプリだったら、災害情報をキャッチするという検索をかけてダウンロードするということですね。

○事務局 そうですね。

○富川委員 多分、ラジオとかだったらすぐ出てくると思うのですが、「近くの避難施設がわかる」というアプリも、具体名は書かないで説明するということですね。

○事務局 今はそのようにしております。

○富川委員 わかりました。

○事務局 もしこうしたほうがいいというものがあれば御助言いただければと思います。

○富川委員 これは、イラストは実際あるアプリに近い感じにはなるのですか。情報としてすごく遠回しなので。

○事務局 イラストは、実際に固有のアイコンを入れていくかどうかは、まだ検討中です。

○富川委員 わかりました。では、文字ベースの紹介になりそうということですか。

○事務局 はい。

○国崎委員 今の質問に関連してなんですけれども、ラジオを聞くというのはスマホのアプリのラジオは通信が途絶えたら使えないですね。

○富川委員 ラジオのアプリは使えると思います。ネットが完全に無理だったら、無理ですけれども。

○国崎委員 ラジオは使えないですね。

○事務局 御指摘として入れていただければと思います。

○国崎委員 通信状況によると注書きをしておけばいいのでしょうか。

○事務局 そうですね。

ほかのところでも、これも言ったらということがもしあれば、記載しておいていただければと思います。

(休 憩)

○池上委員長 それでは、再開させていただきます。

事務局より、委員の皆様へ御質問をお願いいたします。

○事務局 皆さん、ありがとうございました。

私どものほうで今、中島委員を含めて気になるところとかをチェックさせていただきました。お時間も限られているので、いくつか皆さんで話し合っていたいただいたほうがいいも

のについて、お話をさせていただければと思います。

個別にいただいた修正については、またこちらで検討させていただき、反映するところ、あるいは2章、3章に回したりするところもありますので、その整理をさせていただきたいと思います。

本来ならば私どものほうで進行をするのですがけれども、中島委員にさせていただいたほうがいいのかというところがありまして、お願いをしましたので、よろしく願いできればと思います。

○中島委員 よろしく申し上げます。

皆さん、ありがとうございます。皆さんにいただいた赤字を拝見して、御指摘があるところはすごく重なっていたりもして、やはりそうなんだなとすごく思ったのですがけれども、その中で特に具体的に例えば「このグッズにしたほうがいいのか。」とか、「ここは分けなくていいのではないか。」というところは適宜、御指摘のものを反映していくとして、皆さんとこの場で話しておいたほうがよさそうなことを幾つかピックアップさせていただきました。

まず1つが、1-1-2です。「すぐできる」の外出先、出かけるときの防災のところですね。「チェックポイントは「転倒・落下物」「避難ルート」「閉じ込め」の3つ」という原稿の部分です。

これは国崎先生が御指摘くださったのですがけれども、「転倒・落下物」を①として、②は「身を守る場所」で、③が「避難ルート」である。それで、その「避難ルート」の中に「閉じ込め」という概念が入っているのではないかという御指摘だったのでけれども、国崎先生、ここを教えていただいてもよろしいですか。

○国崎委員 地震災害が起きたときに、まず転倒・落下するものの危険を判断して、そこから離れますよね。その離れたところで身を守る行動がやはり大事で、その後、揺れが収まったら逃げましょうという行動の時系列を考えたんです。

そうすると、必ずしも閉じ込めという状況になるとは限らないので、閉じ込めをわざわざチェックポイントに入れる必要もないという意味合いです。むしろそれよりも大事なのは行動の流れで、ぱっと、どこで身を守れるのだらうと、危険なものや逃げる場所をまず確認するということが自然な動きかなという趣旨です。

それで、「転倒・落下物」で「身を守る場所」の確認、それで「避難ルート」という流れかということです。

○中島委員 では、発災時というか、地震が起きました。そうなったら、まず落下物とか、何かが倒れてくるとか、そういうものに気をつけましょう。その後に、例えばガラスを踏まないとか、そういうことなんですか。

○国崎委員 結局、これはイメージじゃないですか。想像してみるということなので、事前に今いる場所で一番危険なのはどこか。転倒・落下物を探すのと同時に、ここにいたら私はどこに逃げたらいいのだらうと自然に考えると思うんです。そういう意味で、身を守

る場所ということですが。

○中島委員 まず、その場所を見つける。

○国崎委員 それで、その後に、どうやって逃げようかという避難ルート、ここの3つをイメージしておくことが大事だと思うので。

○中島委員 そうですね。普段できることとしてということですよ。外出先とかで落下物がないか、転倒とかないか、どこが安全なのか、それで逃げるときにはどこを通ればいいのか。

○国崎委員 そのときに、閉じ込められるかどうかというところを事前に想像しておくということですよ。

○中島委員 ドアがちゃんと開くかとか、そういうことを確認しておくということですね。

○国崎委員 そうです。

○中島委員 なるほど、そうですね。

そこに関しては、皆さんどうですか。その3つのポイントをちゃんとチェックしておくというのは、理にかなっていますか。

○池上委員長 いいと思いますよ。この「閉じ込め」には、部屋だけではなくて、エレベーターの閉じ込めも外出先では入りますよね。特に東京などでは。

だから、いろんなことが考えられるんですが、今おっしゃった3つのほうがいいんじゃないですか。

○中島委員 3つをまず根幹として「チェックしましょう」という項目として立てて、その中で、例えば落下のチェックの場合に窓ガラスが近くにないかとか、倒れそうなブロック塀がないかとか、そういうことをチェックしましょうというイラストが入る。

あとは、「身を守る」という新しく追加された2番目の項目に関しても、イラストで追加していただいて、3つとも対応するようにしてもいいのかもしれないですね。これは作り方の問題なのですが、どういうところであれば身を守れるのか。例えば、広々としているちょっとひらけているところなのか、柱が多いから頑丈なところなのか、そういう項目も一つ立てて、最後に避難ルートの見つけ方のヒントになるようなイラストなどがちゃんと入っている。例えば飲食店であればドアの近くのなか、ファッションビルだったらエントランスとか、あとは今、御指摘がありました、エレベーターに閉じ込められないようにドアがちゃんと開くかどうかとか、エレベーターに乗るのならばこういうことをしておきましょうとか、そういう指摘も入れていただくというふうにすると、この3点が大事である。その3つのポイントがあるということがわかりやすくなりますかね。

○池上委員長 「身を守る場所」なのですけれども、ある方が「その場に合った身の安全」という表現を使ったんです。これは適切でしょう。どこにいても「その場に合った身の安全」、とてもいい言葉だと思います。

いろいろな状況があって、家なのか、外なのか、劇場の中なのか、全く違ってくるので、それを想像していただくというふうに誘導しておけばいいのではないのでしょうか。

○中島委員 大前提として外出先、つまりその場の安全を考えましょうということですかね。転倒しやすいものが多い場所なのかもしれないし、もしかしたら広々とした場所がなかなかないところなのかもしれないし、避難ルートが見つげづらい、みんなが殺到してしまうようなところなのかもしれない。この3点を意識していきましょうということを原稿に入れていただけると、多分わかりやすいですかね。わかりました。

では、次なのですが、1-1-3で、「外出時のおしゃれに、“安心”をさりげなく」というところです。ここは結構、皆さんから御指摘が入った場所で、ちょっとここに関しては整理をさせていただきたいんです。

この原稿を読んで私が感じたことは、「もしものことを考えると、「肌の露出が少ない服装」「歩きやすい靴」「両手があくバッグ」が、安全性の高い外出スタイルです。便利なアイテムを利用して、いつものスタイルに安心をプラスしてみませんか。」とあったのですが、とはいえ、例えば夏場だったらどうしても肌の露出はもちろん多くなったりしますね。あとは、パーティーに行ったりしたらヒールを履くのも当たり前だし、職場でもヒールを履くというのは身だしなみの基本だったりするところもたくさん多分あると思います。両手があくバッグも、毎日リュックを背負うわけにはいかなかったりもするので、やはりハンドバッグを持ったりするときも多いと思うんです。

ですので、これに対する御指摘が皆さんから結構あったのですが、例えばこの3つの条件がなるべく重ならないようにする。露出が多い、歩きにくい、片手がふさがると、もしくは両手がふさがるという3つのうちの最低1つにしておきましょうとか、例えば露出が多い服を着るのであれば歩きやすい靴を選ぶようにしましょうとか、片手がふさがってしまうバッグなのだとしたら、肌は上着を一枚持って露出しないようにしましょうとか、条件が重ならないようにしましょうとする。

例えばですけれども、全部を毎日守るというのは不可能なことだと思うので、そういう提案をまずするとか、それにプラスして例えば大判ストールを持ちましょうとか、歩きづらい靴を履いている日はできれば折り畳みのフラットシューズを携帯するようにしましょうとか、片手がふさがってしまう、もしくは両手がふさがってしまうバッグを持っていく日は、折り畳み式のエコバッグとかで両手がいざというときにあけられるように携帯しておきましょうという意図だと、より現実的なのかなと思ったんです。皆さんの御指摘を総合するとなのですが、その辺のことはいかがでしょうか。

田中さん、靴のことは御指摘いただいていたよ。その辺のところは、どうでしょうか。

○田中委員 追加で何か物を持つというのは、軽くしよう、軽くしようという風潮があるのに、追加しろ、追加しろというのはやはりナンセンスなので、今あるものを変える方法を提案したほうがいいのかと、折り畳みのフラットシューズもどこかに置いていくという提案であればいいのですけれども、それを持ち歩くというのはそもそもないと思っています。

○中島委員 そうですね。ヒールをお仕事に履いていくことが多いような人であれば、職場に一足フラットシューズを置いておくとかという提案ということですかね。携帯が難しいというのは本当にそのとおりだと思うので、どんどん荷物も少なくなっている断捨離的な傾向もあると思うので、携帯が難しければ、例えば置いておくというような提案でもいいかもしれないし、そういうのはどうですかね。

○国崎委員 それは、解決策になっていないですよ。そもそも外出時だから、そこで例えばミュールとかサンダルを履いていたときにどうするのかという解決策を書いてあげなければ、会社に置いておけばいいでしょうということは解決策にならないですよ。

それで、私であれば絶対に折り畳みのフラットシューズなんてかばんの中に入れてはくす。なので、現実的ではないと書かせていただいたのですが、そうだとしたならば後に出てくるレジ袋とかもありましたけれども、普段高校生とかも結構コンビニでペットボトルとかを買っていたりするので、そのレジ袋を使ってハンカチで覆いながら結んだりとかという感じで、どうやって足を保護するのかということ、例えば日ごろから持っているカラーゴムとか、そういうもので足を保護する方法がありますよとか、そういうことを教えてあげたほうが、よほどフラットシューズを持ちましょうということよりはいいのではないかと思います。

だって今、私が履いているのはミュールだし、そういうときにどうすればいいのかという解決策にはなっていないので、むしろそうであればかばんの中にあるこれとこれを使えば足を保護して歩けますよとか、そういう提案ができたらいいのではないかと思います。

○中島委員 そういう発災時のときの行動というのは、3章に割と盛り込んであるという感じでしょうか。いかがですか。

○事務局 備えとしては1章のところなので。

カラーゴムを使ってどうかということは、2章の「発災時の行動」に掲載する感じでしょうか。

○中島委員 日々の行動、例えばこういうことをAからBにすることで身の安全を守りやすいという行動をまず提案しようということが1章なので、ここに関しては最初にある「肌の露出が少ない服装」「歩きやすい靴」「両手があくバッグ」みたいなことが基本というようなことで、その反対の条件が重ならないようにしましょうみたいなことであったり、普段持ち歩くものとして大判ストールとか、エコバッグがあるのであればというぐらいだったらいいような気がします。

それで、靴の非常時のときのことに限っては、発災時のところで例えば触れていただくということにすると、もしかしたら情報が整理されるかもしれないですね。日々できることということで考えると、現実的なのはそういう感じなのかとちょっと思います。

○国崎委員 方向性としては、いいと思うんです。肌の露出が少ない服装のときにはちょっと意識して大型ストールを持ちましょうとか、歩きやすい靴ではないものを履いているときにはちょっとこういうものを持つようにしましょう。例えば、さっき言ったようにレ

ジ袋とかヘアゴムとかがあればとか、そのやり方は2章に持ってきたとしても、足を保護することを意識してこのようなものも活用できますという提案でもいいでしょうし。

○中島委員 どこに記すかということはまたあれですけども、基本は歩きやすい靴がいいよという提案になるような気がします。

それで、そうではないとき、ヒールとか、ミュールとか、サンダルみたいなときはこのようにしましょうというのは次の章に引っ張るといふうに流すというか、それは1章の役割としてはありのような気がしました。

○国崎委員 例えば、サンダルを履いている人に、災害時のことを考えてとりあえず靴下は一組持っていますよなどということは現実的ですか。

○田中委員 違いますね。

○国崎委員 そうでしょう。だとしたら、ハンカチは2枚持っていきましょうというのは。

○中島委員 もしも、それで一番現実的なのだとしたら、歩きやすいかどうかという観点で、靴を買うときに選びましょうということだと思います。

○国崎委員 でも、さっき言ったように、防災のことを考えて靴を選ばないし。

○中島委員 そういう意識をつけましょうということだと思います。多分、一番言えること、自分が選ぶ時点でファッションとしても自分としては合格で、しかも歩きやすいとか、どちらかといえば足をカバーしてくれるものとか、歩きやすいものとかを選びましょうというほうが、私は現実的な気がします。

それでも、ピンヒールを履いたりするときも、もちろんあると思うんです。そうなんですけれども、そのときはそのときで仕方ないですよ。ハンカチとビニール袋でやることはやるという知識を得ておくということだと思いますけれども、

○国崎委員 基本的に、3つ条件が重ならないようにということですね。その靴を履くのであれば、せめて。

○中島委員 そういうことだと思います。だから、多分、大もとに戻ったら靴を選ぶときだと思います。それが、一番現実的な気がします。

○池上委員長 今、ピンヒールがはやっていて、すごいですよね。

○中島委員 人に刺さりそうなものがたくさんあるので。

○池上委員長 そちらのほうが危険ですね。

○中島委員 それを選ぶのならばもうちょっと、例えば低目のヒールのもので私がかわいいと思うから履いているというものを選ぶぐらいのことのほうが、まだ現実的という気はします。

○池上委員長 余談ですが、新宿の高層ビルで大分前に30階ぐらいから1階まで歩いてもらったんですね。もちろんヒールの人っていて、10階おりたところでギブアップしました。そういう体験をしないと、なかなかこういうところまで気が付かないと思います。

○中島委員 そうですね。

○池上委員長 それが現実なので、履きたい人は履きますよね。だから、何かどこかで苦

労してくれるとわかるのかというのもありますし、実際にそういうことがあったんです。そのときに、やはりスニーカーが必要なんだなどその時点で気がついてその人が備えるようになればいいかということがありました。

○中島委員 外出というものをどう捉えるかということでもあるような気がして、こちら辺を歩いていることであったり、私たちはここが職場ではないわけなのですけれども、これも外出ですが、職場にいることが外出でもあるので、例えば田中さんがおっしゃったような職場にフラットシューズを一足置いておくようなことは簡単にできる備えではあるので、一つの提案としてはすごくありだと思うのですけれども、本当に路上を歩いているみたいなきは発災時のことで靴の対処の仕方、ハンカチを持ってビニール袋でということとかは触れるほうがいいのかと思いました。その辺のことは、大丈夫でしょうか。

次が、1-4-2の日常の備蓄についてです。料理のところでも冷蔵庫の中をいっぱいにしておきましょうとかあったのですけれども、備蓄の基本的な考え方についてちょっと皆さんに御意見を伺いたいと思いました。

富川さんが冷蔵庫のところでお指摘いただいていたことを、ちょっと皆さんに御説明いただいてもいいでしょうか。

○富川委員 私はここをすごく長々と書いてしまったのですけれども、冷蔵庫に関しては食品庫という活用の仕方を勧めてもいいかどうか、私はちょっと疑問があります。

なぜかという、被災された方たち、特に家庭があるお母さんたちに話を聞いたときに、意外に生鮮食品をやっつけるのが大変だったという例がすごくあるんです。そういったときに、生鮮食品をまずどうしなければいけないかという、火を通さないと生ごみになってしまうので、缶詰とかに手を出したのが随分、後だったという話を聞いたことを私はよく伝えていることなんです。

ですから、例えばひとり暮らしの人で食品庫に何も常になくてコンビニ生活をしているのであれば、それはそれで全然ありだと思うんです。なので、そういうことでコンビニが使えなくなるといったとき冷蔵庫から何か引っ張り出してくるのではなくて、例えば常温で保存しておける物であったり、ある程度冷蔵庫以外の備蓄ということをお勧めればいい話であって、特にここは生鮮食品をたくさん入れているのであれば、まずそれをやっつけなければいけないんだということをあらかじめ伝えておくべきことだということがまず1つと、あとは特に冷蔵庫が空っぽなのであれば、それはそれで食品をそこに詰めましょうと推さなくていいとは思っています。

○中島委員 田中さんも同じ項目で御指摘くださっていると思うのですけれども、それもちょっとお話しいただいてもいいですか。

○田中委員 それこそ、私は大学生活の間、ずっとひとり暮らしだったので、冷蔵庫がいわゆるビジネスホテルの冷蔵庫サイズだったんです。ほぼ家にいなかったもので、コンビニがみんなとシェアしている冷蔵庫なんです。冷蔵庫という概念が違っているんで、冷蔵庫の中にそもそもない人にさらに備蓄しろというのは、腐らせるために入れるみたい

な状態なので、そうであればもっとレトルトとか、水で溶けるスープとか、そういう物を備えてと言われたほうが現実的だと思います。

○中島委員 確かに、習慣がない人に生ものを買っておいて冷蔵庫の中に詰めておくことがいいというのが本当に正しい備蓄になるのかどうかというと、考え方として難しいということだと思います。

○富川委員 主婦層の方にとっては、意外に冷蔵庫の中に備蓄があるということが割と盲点だったりするので、それを伝えてあげることが一つの言わなければいけないことだと思うのと、逆に空っぽの冷蔵庫をあえて活用するということまでは言わなくてもいいかと思えます。

○国崎委員 文章の表現の仕方ですよ。多分、食料の備蓄庫として冷蔵庫も活用できるという点はいいと思うのですけれども、だからといって、空っぽという人に対してまでやりましょうというのはおせっかいになってしまうというか、これは表現の仕方ではないかと思えます。

要は気づきの部分で、実は災害時に食べ物がないといったときに、冷蔵庫にある物が食べられるならば使えばいいじゃないという気づきを与える部分と、冷蔵庫に物がある人はそこに気づきを与えるだけでいいのではないかと。

○中島委員 家中の食べ物をかき集めて、冷蔵庫の中とかも全部見たら、意外に何日かは大丈夫というくらいの感じでいいんですかね。わざわざ買い足すという考え方よりは、そちらのほうが多分啓蒙としてはいいという感じでしょうか。そうしたら、そのところは大丈夫そうですね。

1-4-2に戻りまして、「日常備蓄」の考え方についてなのですけれども、国崎先生から御指摘いただいたことを教えていただいてもいいですか。

○国崎委員 結局、東京都が勧める日常備蓄プロジェクトというのは、そもそもの私の考えである家庭内流通備蓄から始まっているのだと思いますけれども、でも、今の内容を見ると、結局備蓄ではないか。要は、備蓄していない人にもっと多くそろえて備蓄しなさいと言っているようにしかどうしてもこのページは読めなくて、普段のままでいいんだよと。

普段買っている物を食べたらまた補充してもらって、一定量あればいいのではないかと。生活習慣の自然さという部分で、先ほどの冷蔵庫もそうなのですけれども、無理して空っぽを入れようではなくて、家にある食材は全部食べられるんだという、その気づきの部分が大事なので、これだとイラストの例を見てもレトルト食品とかインスタント味噌汁、缶詰というところも本当に。

○中島委員 普段食べている人ならばいいけれども、普段食べていない人にこれをわざわざ用意してもらう必要はないのではないかとということなんですかね。

○国崎委員 そうです。普段の食材でいいですよ。ですから、食べたらすぐ補充して、常に一定量がいつも自宅にあるようにしておくことですよということではないか

と思います。

実は、これは講演で聞いても、本当に多くの方がやっているんです。だから、冷蔵庫も3日分とかではなくて、冷蔵庫の中のものを全部食べ尽くしたら何日分あるのですかと聞くと3日分が多くて、常温保存のもの、お米とかパスタとか全部を含めたら何日分あるのですかと聞いたら1週間分ある。それならば、もう非常食は要らないんじゃないですか。普段から災害を意識しなくてもそれだけあるのであれば、災害時もそれを食べたらどうですかということが日常の備蓄という言葉がいいのかどうかはわからないのですけれども、その部分をもう少しわかりやすく伝えてあげればいいのではないかと思います。

それから、ついでに衛生用品もそうなのですけれども、常に私は10日分とかではなくて絶対に1カ月分必要だと思うのですが、トイレットペーパーとかティッシュペーパーとか全部1カ月分そろえましようと言うと、皆さんびっくりするんです。そんなに置き場所はないです。

でも、皆さんトイレットペーパーをどうやって買っているのですかと聞くと、1パック12ロールとか入っているものを買っているわけで、「それを全部使うのにどのくらいかかるのですか」と聞くと、「うちは2人暮らしなので1カ月分です。」と答える。「では、お買い得のときにもう1つ買えばいいだけの話ですよ」と言う、「それでいいのですか」と。ティッシュペーパーも、5箱1パックで売っているんです。つまり、1カ月分という言葉に皆さんびっくりしますけれども、ティッシュペーパーのパックをお一人様2点までと、みんなお買い得のときに実は買っているんですよ。それでいいじゃないという話なんです。

そういうように、実は1個買うだけでも、歯磨き粉だって安かったらもう1本買いましようというだけでいいんです。この部分も、それでいいのねというふうにやってもらえると、それならばうちにはいっぱいあるけれどもというのでいいのではないかと思うんですね。

○中島委員 今の御指摘で、確かに今の原稿だと、「食べ慣れた物、好きな物を少し多めにストックします」。あとは、半年程度賞味期限があれば長期保存でなくても無駄にならないようにというのがあるのですけれども、そうではなくて普段の自分の日常にまずある食品とかを見直してみて、どのくらいあるでしょうかということを点検するみたいなことが大事なかもしれないですね。まず、点検しましょう。

それは衛生用品に関しても一緒ですし、生活用品に関してもそうですし、それが1カ月にどれくらい使っているのかとか、1日でどのくらい食べているのか、まず量を把握して、それが例えば食品であれば3日で、衛生用品であれば1カ月分とかあればそれで大丈夫ですよという基準をひとつ見せて、今だと多分、過剰に備蓄する。備蓄は多ければ多いほうがいいみたいな感じで。

○国崎委員 日ごろからたくさん買ってというと、非常食を備蓄するのと同じ感覚になってしまう気がする。

○中島委員 そこまでの、そういうことではないんだよというか、特にこの暮らしの防災ということを見ると、自分のいつもの生活を崩さなくていいというか、多分そういうスタンスのほうが、よりこの本にも合っているし、現実的ではありますよね。

あとは、御家族がファミリーで住んでいる方も、ひとり暮らしの方でも、ディンクスみたいな方でも、みんなにこれは適用できるというか、普段のことでいいんだよというのは。

○国崎委員 結局、「家にある食料は、あなたの家はひとり暮らしだと何日分あるの。」「今日1日をしのぐ分しかない。」「では、1日はあるのね」とか、「あなたの家は」と聞くと、「うちは5日分かな。」「じゃ、それで5日分過ごせるのね」と、そういう家にあるものですね。トイレトペーパーもティッシュペーパーもそうですけれども、どのくらいのロールが今残っているのか。そこからチェックでもいいのかもしれないですね。

○中島委員 それこそ暮らしに根差したというか、そういうことになりますね。それが、ひいては防災対策になるというふうに考えていけばいいということでしょうか。

池上先生、どう思いますか。そのお考えというか、そういうストックみたいな考え方がですが。

○池上委員長 ただし、3.11のときにひとり暮らしのところを取材したら、おっしゃるとおり冷蔵庫に牛乳1本、それも半分くらいしか残っていないだけで、そのときにお友達が差し入れをしてくれたり、お隣近所が挨拶程度だったんだけど差し入れをしてくれてとても助かった。そういう体験をした人は、それ以後、ある程度は備蓄しなきゃとわかっているんです。だから、そういう話を聞いた若者はそろえてくれているかなというのがありますね。

○中島委員 では、やはり見直しというか、その体験はなかなかできることではないので。

○池上委員長 でも、3.11で、今のは東京の話ですよ。

○中島委員 次の地震が起きないとまた体験できないことなのであれなんですけれども、まず見直して牛乳1本しかない、半分しかないという人はある程度、3日間食べられるくらいは自分の好きなものを買っておこうよという話でいいかもしれないですね。

○池上委員長 さっき田中さんがおっしゃったように、本当にそうなんです。今の若者は24時間営業のコンビニ、それから24時間営業しているレストランがありますね。そのレストランで足りているから、全く備蓄の必要がない。そういう方が多いのは、確かなんです。

でも、何か起こるとやはりそれだけでは大変なんだよというのは、読んでいくうちにどこかでわかってもらっていないと、それで安心ではだめかなという気はしています。

○中島委員 本当にちゃんと見直すことというか、自分の必要な量とか、あとは自分の今、家にあるものをまず見直すことで、3日分の食ならば3日分とか、そういう基準が一つあって、それに足りていれば十分だし、そこで過剰に備蓄しようとか、例えば長期保存の乾パンを買おうとか、そういうふうに思わなくていいんだよという提案をこの本ではしていけることが多分、現実的なのかなと思います。

○池上委員長 そうですね。カップ麺とか、あとは麺が乾燥したものというのか、あるで

しょう。あれは結構、皆さんひとり暮らしの人は持っていて、それを全くお湯にも入れず、そのままポリポリ食べたという人もいました。

○中島委員 お水でも戻せるとか。

○池上委員長 そうですね。そういうものが出ているから、いざとなったら。

○中島委員 では、備蓄に関してはそういう感じの考え方をに入れていただけるといいのかなと思いました。

あと1点、1-8-2です。家族のコミュニケーションのところですか。「いざという時の家族との決め事」とか、あとは友達ですね。「家族と」「友達と」というところで、ここはすごく難しいということだと思うんです。

田中さんがまず、いつ被災するかわからないので今どこにいるのかとか、きょうの予定は何かとかを伝え合っておくという御指摘くださったんですけども、ちょっとここを教えていただいてもいいでしょうか。

○田中委員 ここに書かれていることは、被災した場合のことだったり、連絡方法だけなんですけれども、東京に住んでいる人がほかのところに出張したときに被災した場合のことが余り想定されていなくて、例えば都外とかに出張した先で被災しても、どこに行ったか、いつどこで誰がそこにいるのかというのを共有していないことで、東京にいるものだと思って安否確認していなくて、実は被災していたとかが結構あると思うので、常に誰かしらには自分のこれから行く場所とかをシェアしておくことも一個の防災かと思ったもので、連絡方法だけではなくて常に連絡をする、コミュニケーションをするということ自体、防災という書き方をしたほうがいいなと思いました。

○中島委員 子供のところには書いてありましたね。大前提として、1つ項目をふやすとか。例えば海外旅行に行ったりとか、そういうのも全然知らせずに行ってしまうと連絡がとれなくなってしまったというようなことはすごくあたりもする話なので、海外だけではないですけども、地方に行っていてとか、まさかそこで被災していると思わなかったというようなこともありそうなので、どこか遠くに行くときは誰かしらには言うておくとか。

○国崎委員 何か「週の初め」と書いてあったのはどこでしたか。

○富川委員 子供の1-9-3です。ここを家族とか友人のところに全部して。

○中島委員 そこにすると、もしかしたら親切なんですかね。

○国崎委員 これを私は週の初めととったんですけども、必ずしも週の初めでなくてはならないということではないので、出かける前ということですよ。出張であろうと、散歩であろうと、遊びであろうと。

○中島委員 多分、週の頭というのは仮ということだと思うんです。その家族にとっての一つのリズムというか、薬の飲み忘れがないようにというようなことと一緒にですね。月曜日の頭にはとか、日曜日の夜には次の週のことを確認しておきましょうというような、その御家族でリズムができていればいいということだと思うんですけども、そのような

ことを1-8のコミュニケーションのところで、家族なりお友達なりというところでも反映させてもらえると、多分お子さんがいない方とか、ひとり暮らしの方とかでも適用できることになるのかなと今、思いました。

あとは、ここの原稿を拝見して私が思ったのが、ではどういうことを具体的にコミュニケーションしておけばいいのかということだと思っんです。工夫しましょう、連絡をとりましょうではなくて、例えばどういう連絡手段で連絡をとるのかとか、あとはどこかに集まると決めておくのかとか、何かこういうことをコミュニケーションしておくといいよという基準を皆さんに教えていただきたいと思ったんですけれども、どうでしょうか。

○田中委員 私は、自分の特徴をちゃんとコミュニケーションしておくというか、それこそ私は何々アレルギーであるということをシェアしておくとか、閉所恐怖症であるとか、人が多いところだと素直になれないとか、そういうレベルでもいいですけれども、この子はこういうタイプなんだということですね。

何かちょっといじり合えるくらいの仲にはなっておいたほうが、避難所とかに行っても、こいつはこういうやつなんでと言合えるみたいなことがあったほうが、お互いの自己紹介をちゃんとするというか、相手の気持ちとかタイプを知っておくというようなことはいい気がします。

○国崎委員 それは、家族間でということですか。

○田中委員 家族間も、友達もですね。

○中島委員 家族だったら、多分閉所とかアレルギーとか、その辺は大丈夫そうですね。お友達とかでそういうことをシェアしておくという機会を、普通のお友達関係でということなんですかね。

○国崎委員 プライバシー、それもおせっかいというような感じになってしまうかもしれないので、その書き方はちょっとデリケートかもしれないです。どこまで友達に知らせなきゃいけないのかというような。

○中島委員 あとは、実務的なこととしてはどうですか。何をシェアしておく、コミュニケーションしておく。

○富川委員 例えばSNSはこういうものを使おうとか、幾つかアカウントを持っていましようとか、そういう具体的な話というのは別に入ってくるんですか。もうここで言えるんだったら言う感じですか。

○富川委員 例えば、具体的な連絡手段というところで、災害伝言ダイヤルなのか、そういうSNSを使うのか。家族間、友人間で情報ツールみたいなものを具体的に伝えるのは。

○国崎委員 そこは、「東京防災」を見てねということなんですか。

○事務局 そこは1-8-4のアプリの項目に少し入れても大丈夫かと思っます。

○中島委員 「災害時に役立つアプリをスマホに入れておく」という中ということですか。

○事務局 その中に入れても、その入れ方だと思っますが。

○富川委員 そうしたら、具体的にはここにというようなことがわかるといいかと思いません。多分、これだけだと想像つかない人が山ほどいると思うので。

○中島委員 手段として、例えばSNSを利用するというか、電話はつながらなかったけれども、ネットだけはつながったというようなことはすごくあるので、スカイプの電話だけにはつながったとか、そういうのがあるので、ちょっと入れたほうがいいような気がするんですけども、多分1-8-2で提案できるとしたら、SNSを使いましょう。「詳しくは〇〇ページへ」みたいなことかもしれないし、一回使っておくというような提案なのかもしれないし、御両親とかとなかなかそういうことはしないような気もするので、一回使っておきましょうというようなことなのかとか、あとはほかに意外に住所とかをきちんとシェアしていなかったりするとか、電話番号とか、そういうデータのなことをシェアしておきましょうなのか。

○事務局 電話番号をちゃんと確認しましょうというのは、この子供のところで公衆電話の使い方で親の番号をちゃんと暗記しておきましょうとかですね。

○中島委員 それは、子供のところから普通のコミュニケーションにも一緒ということなのか。あとは、ほかに成人同士の家庭だとして、小さいお子さんとかじゃないとして、家族間で決めておいたほうがいいことは例えば何ですか。コミュニケーションをとっておきましょうというときにですね。

○富川委員 これもお子さんがある家庭の話になってしまいますけれども、保育園の引き取り、小学校へのお迎え、幼稚園へのお迎えというところでトラブルを抱えた御夫婦はたくさんいらっしゃるので、そういう家族内の役割分担というのは話し合ってほしい。

○国崎委員 それも書いてありましたよね。

○富川委員 どこかにあるんですけども。

○国崎委員 幼稚園、保育園、子供のところに書いてありましたよね。

○富川委員 そうなんです。でも、何かそこが。

○中島委員 では、それもお子さんだけじゃなくて、例えば家族でということやっておくと便利だったりするんですかね。

○国崎委員 「通園にプラスもしもの約束」、1-9-2です。お子さんがいらっしゃる場合にはここを読めばいいということですね。

○富川委員 家族それぞれの、例えば大学生だったりとかはほとんど皆さん離れて、家族とはいえ、ばらばらの行動をしているわけなので、やはりそれぞれの動きというのをここで知っておくというコミュニケーションは必要だと思うので、日ごろからやはり動きを知らせておくということの中に入ってくるかなとは思いますが。

○中島委員 例えば、月曜から金曜は大学に割と朝から晩まで行って、バイト先は水曜日と土曜日でこら辺に入っていることは多いよというようなことを漠然とでも言うておくというようなことなんでしょうか。

○国崎委員 それこそ、それがさっきのコミュニケーションですよ。田中さんが言うて

いたコミュニケーションの部分を、子供のところに入っていたのでこっちに持ってきましたよという話でしたよね。

○中島委員 そうですね。具体的な項目が出せると、コミュニケーションしておきましょうねというだけだと何をしたらいいのかわからないかなと思ったので、何か具体的な、いる場所とか。

○富川委員 箇条書きじゃないですけども、発災時の役割分担、集合場所。

○中島委員 そういうことが出せると、もうちょっと具体的になってくるのかなと。別に箇条書きじゃなくてもいいと思うんですけども、原稿の中にそういうことを盛り込んでいくというか、いつもいる場所とか、よくいる場所とか、職場の場所、お互いの職場の場所なのか、動き方ですね。

例えば、土日休みじゃないとか、そういう動き方のことだったりという情報、何をコミュニケーションしたらいいのかというのを具体的に入れていけると、多分役に立つという気はしたんですけども。

○国崎委員 表記のイメージというのはどうなりますか。例えば、それを箇条書きでこういうことを話しておきましょうと、だだっを書いていくイメージですか。どんな感じですか。

○中島委員 それは本当に東京都の皆さんにお任せだと思うんですけども、別に原稿の中に入れてもいいと思うし、イラストのかわりに表が入っているというようなことも結構やるんですけども、ひとつビジュアルライズされると目がとまりやすいので、どちらでも見やすいというか、読んでもらいやすいことであれば、別にどちらの形式でもいいんじゃないかと私は思います。

多分バランスを見て、そういう表とかを結構入れたらほうがリズムが出るとか、わかりやすいとかということであれば、それでいいと私は思います。

○国崎委員 私がつくっている『国崎家の防災マニュアル』は割と雑誌とかでも取り上げていただいているんですけども、例えば自宅で自分が下敷きになったとき、それから家族が下敷きになったとき、子供は近所の誰に助けを呼びに行くのかとか、それから家の中で必ず持ち出すもの、もし避難する必要があったらこれだけは持ち出してというリストであったりですね。

うちは自宅が避難場所なので出ていく必要はないと思うんですが、火災とか風水害で仮に避難することがあったとするならば、何々小学校ではなく、何々小学校の校庭の鉄棒の横と具体的に決めて、朝の10時と午後の3時と決めていて、20分待ってこなかったら次の時間と決めているんです。24時間、寒空とか、雨が降っている中、土砂降りの中、子供か傘を差しながら鉄棒の横でぶるぶる震えながらいつ来るかわからない親を待つではなくて、待つ人の負担を考えて、それ以外の時間は自由だよという感じで決めたりとかしているんです。

○中島委員 それはすごくいい情報です。

○国崎委員　そういう項目を全部書いて、こんなことを決めておいたらいいですよ。あとは、自宅にあるもので災害時にはこんなものがこういうふうに使えるというのをリスト化しておいてあげたりとか、そういう項目を出すことはできます。ですから、先ほど言った見せ方としてそれを箇条書きに書くのか。『国崎家の防災マニュアル』のテンプレートみたいに、何々家の防災マニュアルでこんなふうに決めておいたらいいんじゃないかというように感じで、イラストとして見せてあげるのか。

○中島委員　そうですね。あとは必要な項目、特に汎用性が広いというか、これはマストみたいな、例えば10時と3時でとか、場所を例えば校門の脇みたいなことでもいいのかもしれないですし、もっと具体的に決めるといようなこともすごく役立ちそうですし、何をコミュニケーションしたらいいのかというのを具体的に出すというのは、どの程度まで出すかというのはまたお任せになりますけれども、何か具体的に入れていってもいいですよ。

○池上委員長　その場所をきちんと書くというのは大事ですね。小学校だけでは、どこで待っていいのかわからない。そういうちょっとしたヒントになるようなことですね。

○中島委員　時間がというのも、すごくいいです。

○池上委員長　あとは、1-9-2で先ほど幼稚園とか保育園で引き取り訓練というのがありますよね。ここの文章はとてもいいと思ったのは、今までは3.11のときもそうですけれども、共働きの世帯が多いので引き取りに行けなかった。それで、今までは引き取り訓練をしているからいいじゃなくて、現実には即したものをやらないと、引き取り訓練のときはどちらかが休むんです。それで、引き取りに行った。これは訓練にはならないと言っていますので、ここは「通園プラスもしもの約束」で、「大きな地震では、遠いお出かけ先や勤務先からはすぐに迎えに行けない可能性も。」と書いてあるでしょう。これはすごくいいですよ。ちょっと進んで。

○中島委員　その辺が、皆さんでちょっとシェアして話し合っておくといい方向性のことかなという項目でした。

ほかに、もしどうしてもこれは言っておいたほうがいいんじゃないかということがあったら。

○池上委員長　1-1-3の「暮らしに合わせて」で「外出時のおしゃれに”安心”をさりげなく」というところの「大判ストール」です。「頭からかぶって、窓ガラスなどの破片を避けるのに役立ちます。」と言い切っていますが、これは大変危険で、大判ストールだけではガラスが降ってきたときには避けられません。だから、ヘルメットがわりにはならないので、この辺の記述をちょっと要注意と思いました。一番心配なのは、それだけです。

○中島委員　ここに関しては4人、皆さんから全員指摘がきているので、多分大丈夫だと思います。この辺のことは、多分反映されていくと思います。

○事務局　あとは確認で、1-5でトイレのことを触れているんですけども、都としてはホームページなどでも既にトイレは基本的に流さないでくださいというようなアナウンスはしているので、この本でも流さないでということを基本に書いていますが、そのあた

りはそういう方針ということによろしいですね。やはり詰まっているかどうかはわからないので、基本的には流さないということで、それを前提として。

○田中委員 それを一番大きく書いてほしいです。流していいものという情報も、私は小学校のときに習っているので。

○国崎委員 そうでしたよね。

○事務局 表現は改めて見直します。

○富川委員 それは、結構強目に言ったほうがいいことだと思います。多分、ほとんど知られていないことですから。

○中島委員 流せないということを前提にすると、ではどういう対策ができるかという考え方に多分なっていくので。

○国崎委員 それと、あわせて浴槽に水を張りましょうも必要ないんですね。

○中島委員 流せないから、確かにそうですね。では、そういう流せないことを前提にした、これはしなくていいよというのでも触れてもいいのかもしれないです。文章の中にちょっと入れていくとかでもいいかもしれないし。

○事務局 浴槽の中というのでも検討したんですけども、流せない前提なので触れていないということです。

○中島委員 とりあえずトイレに関しては、流せないからこそこれを準備しておこうねという考え方一つに絞っておくというのはすごくありだと思います。

○池上委員長 下水道が破損していて流してすごく復旧に手間取って、苦勞するのは結局私たちなんですね。だから、やはりそれは徹底しておいたほうがいいですね。

○中島委員 私のほうからは、以上です。

○池上委員長 ありがとうございます。

あとは、皆さんからちょっとこれは再確認しておいたほうがいいというようなものがありましたら。

○国崎委員 体調管理なんですけれども、女性の視点が散りばめられているようで、実はこの清潔さでアロマとかマッサージとかもあるものの。

○事務局 国崎先生のほうから災害時特有の脱水のこと、エコノミークラス症候群とか、御指摘いただいていますけれども、被災生活での心と体のリスクみたいなことに対する対処というのは3章で触れようかと思っています。

○国崎委員 お願いします。

それで、実は言いたかった趣旨はそこではなくて、済みません。やはり女性といった中で、かゆみ対策というのをに入れてほしいんです。顔もそうですけれども、ずっと化粧をしたままだったらかゆくもなりますし、体も凄いかゆくなんです。デリケートなゾーンも含めて、汗に関するあせもとかで、このかゆみが本当に睡眠を妨げたりとか、いらいらさせたり、不調になったりもするので、かゆみ対策としてこんな対策をしておいたらいいですよということもちょっと入れておいていただくといいのかなと思いました。

○池上委員長 そうですね。

ほかに委員の皆様から何かありますでしょうか。よろしいですか。

それでは、予定の時間よりちょっと過ぎていますが、質疑応答はこれで終了いたします。皆様からの御意見を踏まえて、事務局のほうで原稿を修正いたしますので、その点は御承知置きください。

ほかに、事務局のほうから何かありますでしょうか。

○事務局 いろいろ御意見いただきまして、こちらのほうで整理して取りまとめをさせていただいて、また後日資料としてお示しさせていただきます。

ただ、その過程で委員の皆様にもしかなしたらお時間をいただいて、少し御相談等をさせていただく場合があります。先月もそのような時間をとっていただいて、たびたびで恐縮ですけれども、どうぞよろしく願いいたします。

スケジュールですけれども、次回の委員会を既にお伝えしておりますが、10月3日に行います。次は、第2章と第3章の原稿を今回と同じようにごらんいただいて御確認いただければと思っております。また、開催の場所とかにつきましては後日御連絡いたしますので、よろしく願いいたします。以上です。

○池上委員長 ありがとうございます。

それでは、これをもちまして閉会とさせていただきます。本当にきょうはありがとうございました。

午後4時00分開会